

Irises and Red and White Plum Blossoms

Secret of Kōrin's Design

尾形光琳300年忌記念特別展

光琳デザインの秘密

かきつばた

燕子花と

紅白梅

こうはくばい

2015年

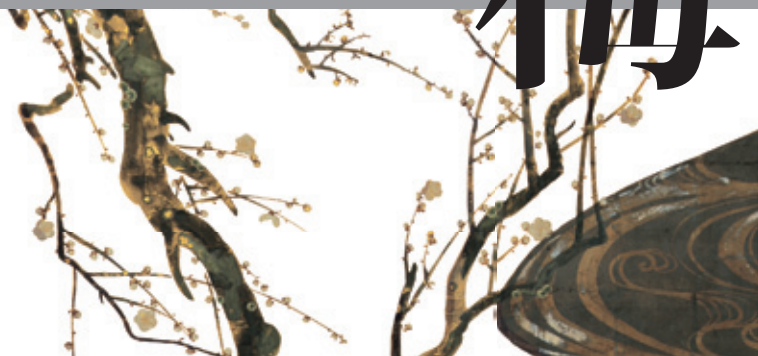
4月18日(土)

5月17日(日)

【休館日】月曜日、

ただし5月4日(月・祝)は開館

根津美術館
NEZUMUSEUM



平成27年(2015)は、享保元年(1716)に59歳で没した尾形光琳の300年忌にあたります。それを記念して、このたび根津美術館では、当館が所蔵する「燕子花図屏風」とMOA美術館が所蔵する「紅白梅図屏風」、光琳が描いた2点の国宝の屏風を、56年ぶりに一堂にご覧いただく特別展を開催します。

「燕子花図屏風」は40歳代なかば、画家としての出発が遅かった光琳の画業において最初の到達点を示す作品です。総金地に青と緑のみによって、単純明快な構図のもと、燕子花の群れが鮮烈に描きだされています。一方、晩年を代表する「紅白梅図屏風」は、紅梅と白梅が対峙する間を、暗く輝く流水が画面を縦に分断するという、「燕子花図屏風」とはまったく異なる、対立する諸要素による緊迫した造形を見せながら、やはり光琳の卓越した意匠感覚が発揮されています。

このふたつの屏風にもうかがわれる光琳のデザイン性に、あらためて注目したいと思います。光琳は、京都の高級呉服商を生家として美しい衣裳に囲まれて育ち、また縁戚にもあたる本阿弥光悦や俵屋宗達によって生みだされた江戸初期の装飾芸術に親しみ、かつ新しい時代の感覚も取り込んで、独自の世界をつくりあげました。展覧会では、光琳の「模様」のような屏風の系譜を宗達からたどり、光悦に関わりのある雲母や金銀泥による木版摺りが光琳に与えた影響を探り、さらに漆器の図案や弟・乾山の陶器への絵付けなども含めたデザイナー・光琳の営みを総覧します。

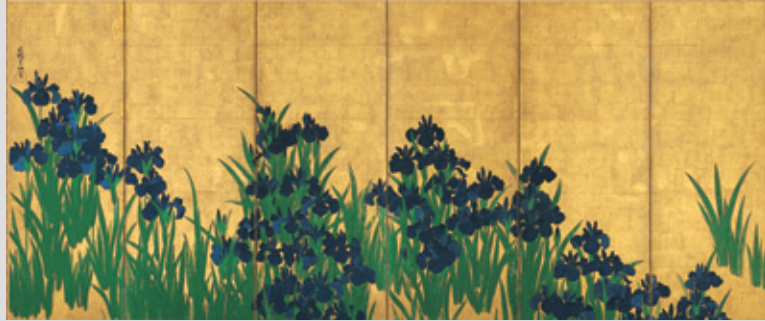
ほかのいかなる画家とも異なる、光琳の魅力あふれる造形に迫る展覧会です。

かきつばた こうはくばい
「燕子花と紅白梅」

国宝

かきつばたぎょうぶ おがたこうりん
燕子花図屏風 尾形光琳筆 6曲1双
江戸時代 18世紀 根津美術館蔵

なかば文様化された燕子花が、左右隻で異なる構図を描きながらリズムカルに配置される。そこには、良質な絵具をふんだんに用いた豊かな量感がともなっている。伊勢物語に登場する燕子花の名所・八橋の場面にもとづくともいわれる。



国宝

こうはくばいずびょうぶ
紅白梅図屏風
おがたこうりん
尾形光琳筆
2曲1双
江戸時代 18世紀
MOA美術館蔵



若々しい息吹をたたえた紅梅と、老練さを感じさせる白梅。幹にほどこされた複雑なたらしこみが重厚な存在感を与える。かたわらを、抽象的とさえいえる図案風の流水が蛇行する。異質な要素が組み合わされながら、それらが完璧に調和している。

重要文化財

くじやくたからあおいずびょうぶ
孔雀立葵図屏風
おがたこうりん
尾形光琳筆
2曲1双
江戸時代 18世紀
個人蔵



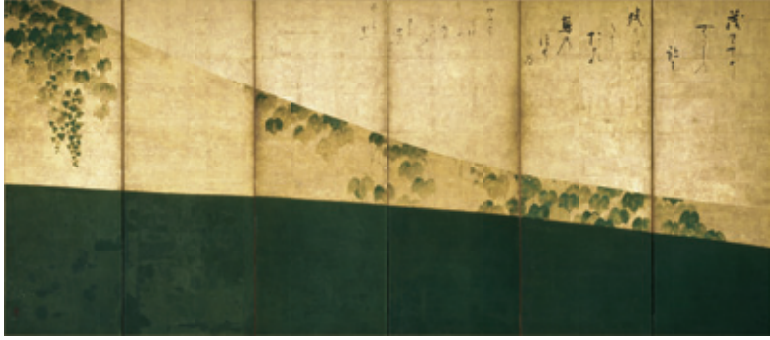
もとはついでに表裏をなしていた作品。羽根を広げた雄の孔雀を縁取るかのような白梅の幹や、伸長し屈曲する枝ぶりに、「紅白梅図屏風」に至る光琳の創造性がうかがわれる。

光琳の展覧会史

光琳は、没後100年ごとに記念碑的な展覧会が開催されてきました。100年忌にあたる文化12年(1815)には、光琳顕彰の立役者・酒井抱一さかいほういつによって光琳の遺墨展が催され、そこで展覧された作品を中心とする図録『光琳百図』が刊行されました。またその100年後、大正4年(1915)には三越呉服店(現在の三越百貨店)で「光琳二百年忌記念光琳遺品展覧会」が開催され、空前の光琳ブームが巻き起こりました。このたびの展覧会は、それらに続くものとなります。

重要文化財

つたのほそみちすびょうぶ たわらやそうたつ からすまるみつひる
鶯の細道図屏風 俵屋宗達筆 烏丸光広賛 6曲1双
江戸時代 17世紀 相国寺蔵



伊勢物語の一場面にもとづきながら、デザイン性あふれる斬新な画面をつくる。モチーフや色が限定される点でも「燕子花図屏風」に通じる。宗達は、光琳芸術の重要な前史だった。



[展示期間:4月18日～5月3日]

重要文化財

かえでず こにしげもんじょ おがたこうりん
楓図(小西家文書) 1枚 尾形光琳筆
江戸時代 18世紀
京都国立博物館蔵



この楓の文様は、いわゆる「光悦謡本」の雲母摺りを写したもの。光琳は、木版の単純化された図柄やパターンをの繰り返しに関心を抱き、それを「燕子花図屏風」に応用した。

小西家文書とは

小西家文書とは、光琳の息子・寿市郎が養子に入った京都銀座役人・小西彦九郎家に伝えられた資料群のこと。生家の呉服商雁金屋や光琳自身の家庭・経済・趣味に関わる記録、光琳の筆になる写生や画稿、粉本、工芸図案などからなり、光琳の生涯や画業を知る上できわめて貴重な存在です。本展では、この小西家文書からスケッチや画稿、蒔絵の図案、さらに雁金屋の衣裳図案帳などを展示して、光琳デザインの秘密を探ります。

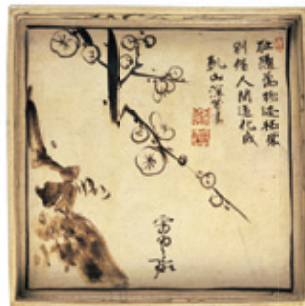
[展示期間:4月18日～5月10日]



重要文化財

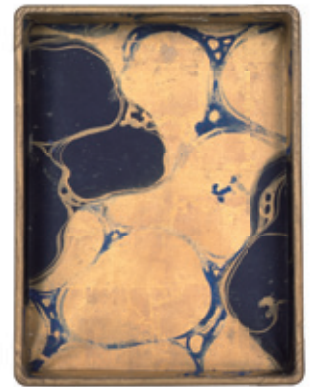
せんめんはりませてぼこ おがたこうりん
扇面貼交手箱 尾形光琳筆 1合
江戸時代 18世紀 大和文華館蔵

金箔押しの木製の箱に、扇面8枚、団扇4枚が貼り交ぜられている。多岐にわたる画題は光琳のレパートリーの広さを示す。変形画面における構図の感覚も見所である。



きびえうめずかくざら
鏤絵梅図角皿
おがたけんざん おがたこうりん
尾形乾山作・尾形光琳画 1枚
江戸時代 18世紀 根津美術館蔵

陶芸家であった弟・乾山との合作。四角い皿の見込に、光琳が梅を描いている。梅の幹がフレームを飛び出し、上から枝が姿をあらわす構図は「紅白梅図屏風」と同じである。



りゅうすいずみだればこ おがたこうりん
流水図乱箱 尾形光琳筆 1口
江戸時代 18世紀 個人蔵

平たい箱の内側に、金と青をつかって、水面にゆらめく流水の文様を描く。流水は「紅白梅図屏風」にも描かれており、光琳にとって重要なモチーフだった。

< その他の主な出品予定作品 >

※会期中、展示替えを行う予定の作品が含まれています。

- 扇面散貼付屏風 俵屋宗達筆 出光美術館蔵
- 重要文化財 芦舟蒔絵硯箱 本阿弥光悦作 東京国立博物館蔵
- 槇楓図屏風 伝俵屋宗達筆 山種美術館蔵
- 桔梗図扇面 尾形光琳筆 梅澤記念館蔵
- 重要文化財 槇楓図屏風 尾形光琳筆 東京藝術大学大学美術館蔵
- 紅葉流水図団扇 尾形光琳筆 五島美術館蔵
- 夏草図屏風 尾形光琳筆 根津美術館蔵
- 鶯図香包 尾形光琳筆 個人蔵
- 重要文化財 雁金屋衣裳図案帳 大阪市立美術館蔵
- 重要文化財 鏤絵染付金彩土器皿 尾形乾山作 根津美術館蔵

同時開催 展示室6「燕子花図屏風の茶」

昭和6年5月、初代根津嘉一郎は友人を自邸に招いて「燕子花図屏風」を披露し、野点の茶で客をもてなしました。当時の取合せを再現します。



重要美術品 青磁袴腰香炉 龍泉窯 1口
中国・南宋時代 13世紀 根津美術館蔵

胴の部分が袴をはいた姿に見えることから、我が国では袴腰と呼ばれる。釉色の美しさ、均整のとれた姿から、袴腰香炉の優品として知られる。



三島茶碗 銘上田曆手 1口
朝鮮・朝鮮時代 16世紀 根津美術館蔵

端正な姿をした初夏にふさわしい名碗。この作品のように、小さな連続する点文が施され、白土が内外に掛けられたものを三島茶碗と称する。

お知らせ



<夜間開館>

©藤塚光政

本展覧会最終週の5月12日(火)～5月17日(日)は開館時間を夜7時まで延長します。初夏の宵の根津美術館でゆったりとした時間をお過ごしください。



<庭のカキツバタ>

当館庭園の池では、毎年4月末～5月上旬にかけてカキツバタの群生が花を咲かせます。尾形光琳筆「燕子花図屏風」のご鑑賞とあわせて、初夏の庭の風情とカキツバタをお楽しみください。



<初夏の夕暮れは、光琳とシャンパンと>

NEZUCAFÉでは、5月12日(火)～5月17日(日)の夜間開館の期間中、17時よりNEZUCAFÉでは、シャンパンが登場。シャンパンが先か、光琳が先か、はたまた庭のカキツバタが先か、楽しみ方はお客様次第です。

グラス シャンパン 1,500円(税込)
プロシュート&オリーブ 600円(税込)

関連プログラム

| **講演会** 「光琳アート&デザイン」
日時 4月19日(日) 午後2時～3時30分
講師 内田 篤呉氏 (MOA美術館 館長)
定員 130名

| **記念シンポジウム** 「光琳デザインの秘密」
日時 5月3日(日) 午後1時30分～4時30分
パネリスト 江村 知子氏 (東京文化財研究所 主任研究員)
中部 義隆氏 (大和文華館 学芸部長)
マシュー・マッケルウェイ氏 (コロンビア大学 教授)
司会 野口 剛 (根津美術館 学芸第二課長)
定員 100名

〈申し込み方法〉 往復葉書に、参加を希望される催事名(「講演会」または「記念シンポジウム」と住所・氏名(返信面にも)・電話番号を明記の上、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館「燕子花と紅白梅」展講演会係宛にお申込みください。
* 「講演会」は4月5日(日)、「記念シンポジウム」は4月19日(日)締切(当日消印有効)。
* 参加希望者1名1プログラムにつき、1枚の往復はがきでお申込みください。

| **モーニングレクチャー** 日時 4月21日(火) 午前11時～
4月28日(火) 午後11時～
| **イブニングレクチャー** 日時 5月12日(火) 午後5時30分～

各回45分間程度(定員130名)
展示内容について学芸員がスライドを用いてお話しします。
* 事前申し込みは不要です。各回とも開始の15分前より講堂を開場します。
* 参加は無料ですが、入館料をお支払いください。

※会場は、講演会・レクチャーいずれも根津美術館講堂。
※聴講は無料ですが入館料をお支払いください。

特別イベント

| **茶席** 「根津嘉一郎の茶席
—燕子花図屏風賞翫会—」
根津美術館のコレクションの礎を築いた実業家・初代根津嘉一郎は、大倉男爵に請われて昭和6年5月14日に「燕子花図屏風賞翫会」を開催し、屏風の観覧にあわせて茶をふるまいました。初代嘉一郎没後75年の本年、この賞翫会にちなみ、当館庭園にて茶会を行います。
日時 5月14日(木)
会場 根津美術館 庭園内茶室「披錦齋」

* 料金・申込方法などの詳細はHPまたは電話にてお問い合わせください。



| **仕舞** 「^{とうぼく}東北」
夜間開館の一日、闇夜に漂う梅の香りのような和泉式部の舞い姿をお楽しみください。
日時 5月15日(金) 午後6時～6時30分
出演 観世鏡之丞師(能楽師)
場所 根津美術館 1階ホール

* 着席鑑賞ご希望の方には整理券を午後5時より受付にてお配りいたします。立見でもご覧になれます。
* 事前申し込みは不要。鑑賞は無料ですが、入館料をお支払いください。



開催概要

- 【展覧会名】 尾形光琳300年忌記念特別展「燕子花と紅白梅 ―光琳デザインの秘密―」
- 【主催】 根津美術館
- 【開催期間】 2015年4月18日(土)～5月17日(日)
- 【開館時間】 午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]
- 【休館日】 毎週月曜日、ただし5月4日は開館
夜間開館：5/12(火)～17(日)は午後7時[入館は午後6時30分まで]まで開館。
- 【入館料】 一般1200円(1000円) 学生1000円(800円)
*()内は20名以上の団体料金、中学生以下無料
- 【前売券】 一般1100円 学生900円
2015年3月7日(土)～4月6日(月)「救いとやすらぎのほとけ―菩薩」展開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売
- 【アクセス】 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道)駅下車 A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベータまたはエスカレーター)より徒歩10分
- 【住所】 〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1
- 【お問い合わせ】 TEL 03-3400-2536 (代表)
- 【ホームページ】 <http://www.nezu-muse.or.jp> (日本語・English)
<http://www.nezu-muse-app.jp> (日本語・English)
*携帯サイトは機種により閲覧できない画面があります。
「App Store」・「Google play」から根津美術館を検索してダウンロード

MOA美術館での展覧会情報

当館での開催に先駆け、MOA美術館では、「燕子花図屏風」と「紅白梅図屏風」を中心としながら、100年忌、200年忌の展覧会を経て、現代にまで受け継がれる光琳芸術の系譜を概観します。全く異なる内容で構成される両館の展示を通じて、光琳芸術をご堪能ください。

尾形光琳300年忌記念特別展 「燕子花と紅白梅 光琳アート 光琳と現代美術」 2015年2月4日(水)～3月3日(火)

【問い合わせ先】

MOA美術館 熱海市桃山町26-2 電話:0557-84-2511

次回展



江戸のダンディズム ―刀から印籠まで―

2015年 5月30日(土)～7月20日(月・祝)

男性のこだわりを凝縮した、刀剣・刀装具・印籠を当館のコレクションより一挙公開

上 鍾馗時絵印籠 柴田是真作 日本・明治19年(1886) 根津美術館蔵
下 端午時絵印籠 柴田是真作 日本・江戸～明治時代 19世紀 根津美術館蔵

【リリース・広報のお問い合わせ】

担当： 所、村岡、羽田 TEL:03-3400-2538 (直) FAX:03-3400-2436 MAIL:press@nezu-muse.or.jp